

神奈川県全体における対応の基本方針について

検討経緯

- 首都圏における道路の渋滞対策を効率的に進めていくため、「首都圏渋滞ボトルネック対策協議会」※(以下「協議会」)において、道路利用者の皆様が実感している渋滞箇所等を「主要渋滞箇所」として特定しました。
- このたび、「地域の主要渋滞箇所」の対応の基本方針を「協議会」において検討し、決定しました。

※「首都圏渋滞ボトルネック対策協議会」の構成員

国土交通省関東地方整備局、関東運輸局、警視庁、埼玉県警察本部、千葉県警察本部、神奈川県警察本部、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市、東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、首都高速道路株式会社

H24.6 第1回協議会

H24.7 第2回協議会

H24.12 第3回協議会

主要渋滞箇所の特定

H25.6 第4回協議会

対応の基本方針の公表

1. 神奈川県の概況

	概要
神奈川県の状況	<ul style="list-style-type: none"> 神奈川県は事業所数が全国で第4位であり、京浜工業地帯の一部を形成する川崎市、横浜市の京浜臨海部や圏央道周辺の県央・湘南地域に産業が集積しています。 横浜、鎌倉、箱根といった国際的観光地をはじめとして、湘南、三浦半島、丹沢・大山など、特色ある観光地が各地域に形成され、多くの観光客が訪れています。 東京の南西部に位置していることから、古くから東西方向(都心から放射方向)の道路が整備されているものの、南北方向(都心の環状方向)の道路整備が遅れています。
道路交通状況	<ul style="list-style-type: none"> 東西方向の道路は、海側から東京湾岸道路、国道15号、国道1号、第三京浜、国道246号、東名高速道路等の幹線道路が整備されていますが、通過する地域は人口や産業施設が集中しており、交通需要も大きいため、主要な交差点や交通容量の低下している箇所での渋滞が発生しています。 南北方向の道路においては、道路ネットワーク整備が進んでいないため、国道409号、国道16号、国道129号等の限られた路線に交通が集中しており、交通容量の不足から慢性的な渋滞が発生しています。 県央の厚木市、相模原市・大和市周辺では、幹線道路が市街地中心部を通過しているため都市内交通と都市間交通が混在し、主要交差点等で渋滞が発生しています。 箱根や鎌倉・湘南、三浦半島などの観光地周辺では、朝夕のピーク時や休日、観光シーズンに観光渋滞が発生しています。

2. 対策の方向性

	概要
総合対策等	<ul style="list-style-type: none"> 現在進めている道路ネットワーク(圏央道、高速横浜環状道路、川崎縦貫道路、バイパス等)の整備を進めるとともに、市中心部や都市間を結ぶ幹線道路の主要渋滞箇所において、それぞれ渋滞要因に即した対策を総合的に講じていきます。
道路整備等	<ol style="list-style-type: none"> 東西方向の道路における渋滞対策 道路ネットワークの整備や交差点の改良、道路線形の不良箇所の改良や交通容量の拡大検討等により交通容量の拡大を図ります。 →道路ネットワークの整備(厚木秦野道路、横浜湘南道路、高速横浜環状南線等) →東西交通軸の交通容量の拡大検討(東名高速道路(大和トンネル付近)等) 南北方向の道路の渋滞対策 道路ネットワーク整備により、都市内交通と都市間交通を適切に分担する等、交通の円滑化を図ります。 →道路ネットワークの整備(圏央道(さがみ縦貫道路)、高速横浜環状北線・北西線、川崎縦貫道路の整備) 市街地における渋滞対策 幅幅による容量確保や交差点立体化、交差点改良、都市計画道路の整備等により交通の円滑化を図ります。 →幅幅による容量確保((都)世田谷町田線等) →都市計画道路の整備((都)宮内新横浜線等) 主要な観光地における休日や観光シーズンの渋滞対策 観光地への経路にあたる幹線道路における交通集中による渋滞について、幅幅による容量確保等により交通の円滑化を図ります。

3. 神奈川県全体の交通ネットワークイメージ

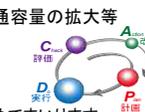


今後の対応方針

各主要渋滞箇所の渋滞対策にあたっては、首都圏3環状道路等の整備や環状道路の利用促進等によるネットワークの有効活用に取り組みつつ、道路構造上の問題に起因する渋滞ボトルネック箇所の対策や一般道における交差点円滑化、交通容量の拡大等について各道路管理者や警察が連携し道路利用者の協力を得つつ、神奈川県移動性(モビリティ)向上委員会の意見をいただきながら、検討箇所の抽出、渋滞要因の分析、対策の立案・実施を行っていきます。

- 交通需要が大きい東西方向や道路ネットワーク整備が遅れている南北方向の道路ネットワーク整備や交差点改良等を実施します。
- 市街地における交差点改良や、観光地周辺における交差点改良など交通容量の拡大を図ります。

- 国道1号、国道246号および東名高速では交通が集中しており交通容量の低下や不足により渋滞が顕著なため、「(仮称)神奈川県東名軸渋滞ボトルネック検討WG(ワーキンググループ)」を設置し、各道路管理者や警察が連携して対策等の検討を進めてまいります。
- 今後、渋滞箇所や渋滞状況が変わることが想定されることから、神奈川県移動性(モビリティ)向上委員会の意見をいただきながら主要渋滞箇所やその対応方針について見直しを行ってまいります。(PDCAサイクル)



■神奈川県県央地域における対応の基本方針について

検討経緯

- 首都圏における道路の渋滞対策を効率的に進めていくため、「首都圏渋滞ボトルネック対策協議会」※(以下「協議会」)において、道路利用者の皆様が実感している渋滞箇所等を「主要渋滞箇所」として特定しました。
- このたび、「地域の主要渋滞箇所」の対応の基本方針を「協議会」において検討し、決定しました。

※「首都圏渋滞ボトルネック対策協議会」の構成員

国土交通省関東地方整備局、関東運輸局、警視庁、埼玉県警察本部、千葉県警察本部、神奈川県警察本部、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市、東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、首都高速道路株式会社

H24.6 第1回協議会

H24.7 第2回協議会

H24.12 第3回協議会

主要渋滞箇所の特定

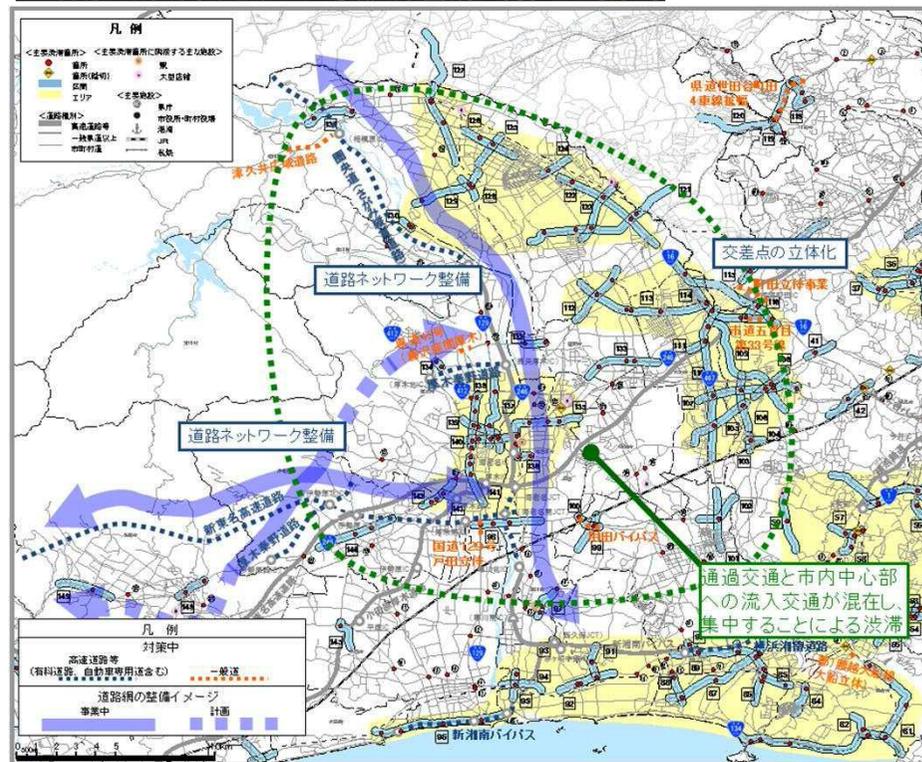
H25.6 第4回協議会

対応の基本方針の公表

1. 神奈川県県央地域の概況

	概要
神奈川県県央地域の状況	<ul style="list-style-type: none"> 東名高速道路や国道16号、国道246号などの道路網が古くから整備され、幹線道路周辺に製造業や研究開発機関が集積しています。 鉄道駅から離れた郊外においても市街地が形成されており、駅へアクセスするための交通手段は、県平均の4.4%に比べ8.1%と自動車利用の依存度が高くなっています。 東西方向には東名高速道路の多重化をも担う新東名高速道路の整備や、南北方向を結ぶ新たなネットワークとなる圏央道(さがみ縦貫道路)の整備が進められており、その周辺地域においては企業進出も進んでいます。
道路交通状況	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市や、大和市、厚木市の中心部では通過交通と市内中心部への流入交通が混在し、湾岸地域と内陸部の南北方向を結ぶ国道16号や、東京と静岡間の東西方向を結ぶ国道246号などの幹線道路で容量不足による速度低下や渋滞が発生しています。

3. 神奈川県県央地域の主要渋滞箇所と現在の対策等



2. 対策の方向性

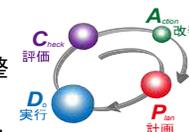
	概要
道路整備等	<ol style="list-style-type: none"> 東西方向の道路における渋滞対策 交通需要が大きく交通容量が不足している東西方向について、道路ネットワークの整備や交差点の改良、道路線形の不良箇所の改良等により交通容量の拡大を図ります。 →道路ネットワークの整備(厚木秦野道路) 南北方向の道路の渋滞対策 道路ネットワークの整備が進んでいない南北方向について、都市を迂回する道路環状道路の整備により、都市内交通と通過交通を適切に分担する等、交通の円滑化を図ります →道路ネットワークの整備(圏央道(さがみ縦貫道路)) →交差点立体化(国道16号町田立体等)

今後の対応方針

各主要渋滞箇所の渋滞対策にあたっては、首都圏3環状道路等の整備や環状道路の利用促進等によるネットワークの有効活用に取り組みつつ、一般道における交差点円滑化、交通容量の拡大等について各道路管理者や警察が連携し道路利用者の協力を得つつ、神奈川県移動性(モビリティ)向上委員会の意見をいただきながら、検討箇所の抽出、渋滞要因の分析、対策の立案・実施を行っていきます。

→交通需要が大きく交通容量が不足していることに起因する東西方向の渋滞や道路ネットワークが進んでいないことによる南北方向の渋滞について、道路ネットワークの整備や交差点立体化、交差点改良等を実施します。

- 今後、渋滞箇所や渋滞状況が変わることが想定されることから、神奈川県移動性(モビリティ)向上委員会の意見をいただきながら主要渋滞箇所やその対応方針について見直しを行っていきます。(PDCAサイクル)



■神奈川県西地域における対応の基本方針について

検討経緯

- 首都圏における道路の渋滞対策を効率的に進めていくため、「首都圏渋滞ボトルネック対策協議会」※(以下「協議会」)において、道路利用者の皆様が実感している渋滞箇所等を「主要渋滞箇所」として特定しました。
- このたび、「地域の主要渋滞箇所」の対応の基本方針を「協議会」において検討し、決定しました。

※「首都圏渋滞ボトルネック対策協議会」の構成員

国土交通省関東地方整備局、関東運輸局、警視庁、埼玉県警察本部、千葉県警察本部、神奈川県警察本部、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市、東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、首都高速道路株式会社

H24.6 第1回協議会

H24.7 第2回協議会

H24.12 第3回協議会

主要渋滞箇所の特定

H25.6 第4回協議会

対応の基本方針の公表

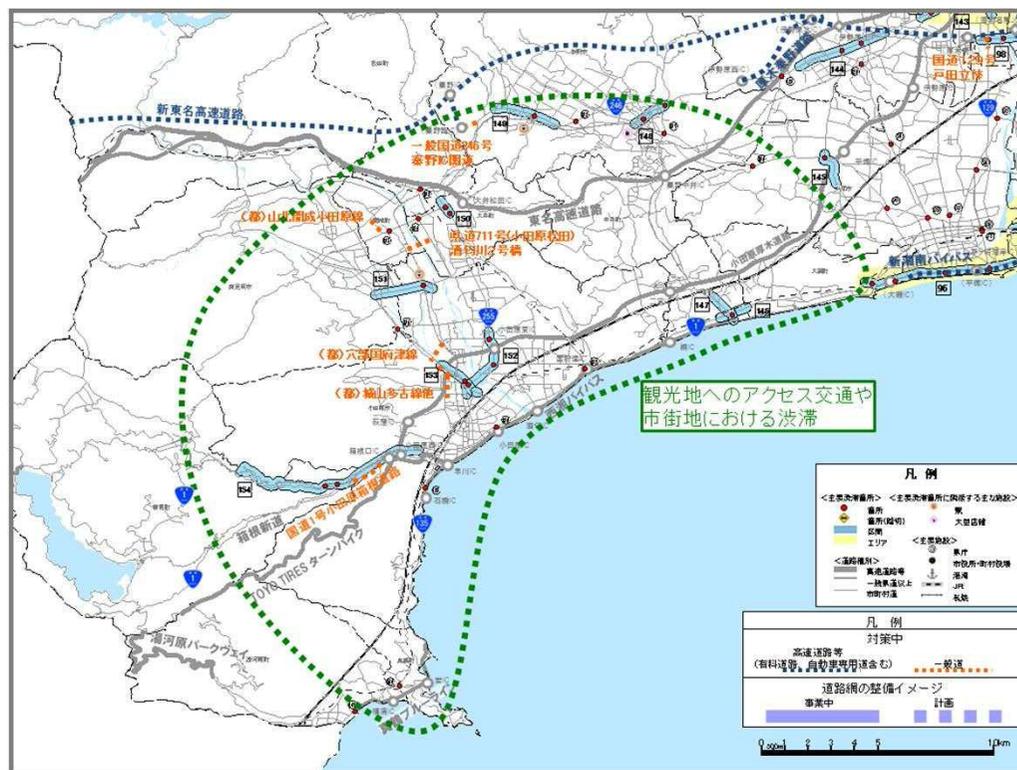
1. 神奈川県西地域の概況

	概要
神奈川県西地域の状況	<ul style="list-style-type: none"> 全国有数の温泉地である箱根、歴史ある城下町・宿場町の小田原、さがみの小京都と言われる湯河原など、それぞれ魅力を持ったわが国を代表する観光地となっています。 県内他地域に比べ、最も鉄道、バスの利用率が低く、自動車利用率が高い地域であり、自動車利用のさらなる増加が懸念されます。
道路交通状況	<ul style="list-style-type: none"> 小田原市の中心部では、通過交通と市内中心部への流入交通が混在し、容量不足による速度低下や渋滞が発生しています。 小田原市や箱根町等では、特に休日や行楽シーズンは日中、国道1号などで観光地に向かう渋滞が発生しています。

2. 対策の方向性

	概要
道路整備等	<ol style="list-style-type: none"> 市街地における渋滞対策 都市計画道路の整備等により交通の円滑化を図ります。 →都市計画道路の整備 主要な観光地における休日や観光シーズンにおける渋滞対策 観光地への経路にあたる幹線道路における交通集中による渋滞について、バイパスの整備や拡幅による容量確保等により交通の円滑化を図ります。 →バイパスの整備(国道1号小田原箱根道路)

3. 神奈川県西地域の主要渋滞箇所と現在の対策等



今後の対応方針

各主要渋滞箇所の渋滞対策にあたっては、一般道における交差点円滑化、交通容量の拡大等について各道路管理者や警察が連携し道路利用者の協力を得つつ、神奈川県移動性(モビリティ)向上委員会の意見をいただきながら、検討箇所の抽出、渋滞要因の分析、対策の立案・実施を行ってまいります。

→交通需要が大きく交通容量が不足していることに起因する東西方向の道路の渋滞や観光交通によるアクセス道路の渋滞について、道路ネットワークの整備や道路拡幅による交通容量の拡大、交差点改良等を実施します。

- 今後、渋滞箇所や渋滞状況が変わることが想定されることから、神奈川県移動性(モビリティ)向上委員会の意見をいただきながら主要渋滞箇所やその対応方針について見直しを行ってまいります。(PDCAサイクル)

